

WASSHOI!

わっしょい！市民活動 くるめ

vol.7
2025

第2回
わっしょい！
2025

@ 旧 青峰小学校

たくさんのご参加
ありがとうございました！

第1部 子ども&防災キッズパーク



じじっか
(一般社団法人 umau.)



自衛隊
福岡地方協力本部

NPO法人
むげん企画

チラシ
コンテスト

第2部 夜の学校を探検！



[開催レポート ダイジェスト版]の閲覧を希望される方は、みんくるまでお問い合わせください。

ヨカゴツこんさる

- NPO経営の専門相談会 -

相談者のお悩みに合わせてNPO経営の専門家が
お応えします。予約制です。

● 2026年の予定 ●

1月10日(土) } ①14:00-15:00
2月14日(土) } ②15:30-16:30
3月14日(土) } ※各日 2枠です

相談料
無料
※要申込



申込フォーム

開館時間 月～土 10:00～21:00 / 日・祝 10:00～19:00

休館日 毎月第3月曜日(祝日の場合は翌日) 年末年始

〒830-0031 久留米市六ツ門町3-11 くるめりあ六ツ門 6階

☎: 0942-30-9067 Fax: 0942-30-9068

✉: info@kurume-kyodo.jp

編集・発行

久留米市市民活動サポートセンター みんくる

指定管理者

久留米ガス株式会社・くるめ協働CASE PJ 共同体



みんくるHP

- 活動団体クローズUP -

iサイクル

- 市民活動 Sign me up! -

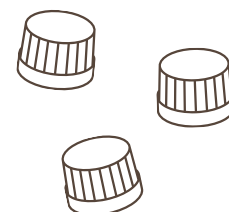
- ・第2回 わっしょい！2025 開催レポート
- ・ヨカゴツこんさる－NPO経営の専門相談会－

Kurume Civic Activity Support Center

「私」から始める、愛と思いやりの循環。

～ ペットボトルキャップでつなぐ、地域の居場所と国際協力 ～

「iサイクル」



iサイクルさんは、ペットボトルキャップの回収を通じて海外支援を行っている、草の根の国際協力団体です。寄付金は、ラオス・マラウイで活動するISAPHや、フィリピンのカノッサ修道女会を通じて、現地のお母さんと子どもたちの健康支援に役立てられています。
代表の 坂西 信平 さんにお話を伺いました。



月に一度の作業会♪
様々な方が参加
しています



楽しい分別作業♪
しゃべりながらするもよし
もくもくとするもよし
安心できる場です



自然と広がった協力の輪

「クマの形をした透明な容器にキャップがたくさん入っているのを、偶然見かけたんです。」

活動が広がると、キャップを送る際の送料が課題に。この課題を解決するため、2010年に団体を設立しました。

協力してくれる
方が少しずつ
増えていき
今の形があります

と、目をキラキラさせて話す坂西さん。
職場で一人でキャップの洗浄を始めたところ、
「清掃の方やスタッフたちが、何も言わずに協力してくれるようになり、『これは意味がある作業だな』と確信しました。」

リサイクル業者や運搬会社を探し、想いを込めたメールを送ったり、直接会いに行ったりとした地道な活動が実を結び、現在に至ります。



代表の坂西さん

iサイクル 作業会

毎月第2木曜日 17:30-18:30
場所：ケアハウスメゾンマリア2階
(久留米市津福本町字草場276-2)
メール：2010icycle@gmail.com

iサイクルは、毎月第2木曜日にメゾンマリア2階で作業会を行っています。作業会では、集まったキャップの分別や、支援先の方々との交流会をしています。皆さんが集めたキャップは、ぜひこの作業会の日にお持ちください。作業会に参加できない方は、メゾンマリア1階にある回収場所をご活用ください。

活動の様子や今後の予定はこちら



用途を終えたキャップが 思いやりのバトンに

作業会では、キャップをただ分別するだけでなく「今回の個数で〇〇円になりました」と参加者さんに報告しています。

「集めて終わりじゃなく『その先がどうなっているのか』を知ること、活動に想いがこもる。だからキャップを『思いやりのバトン』と呼んでいます。」

iサイクルが集めているのは、リサイクル可能な資源。

『洗って仕分ける』という『面倒くさい作業』を通して、気持ちや行動、意識を変えていくことも、この活動の大切な目的の一つです。



活動実績
総数：43,254,698個
寄付総額：171万3733円

ありがとうの循環が生まれる地域の居場所づくり

iサイクルの作業会は、地域に開かれた活動の場となっています。

また、海外の支援先と随時オンライン交流を行い、活動の成果と感謝を分かち合っています。

坂西さんは、この作業会を『ありがとうの循環が生まれる居場所』だと語ります。

「普段、ケアされる立場になりがちな方が、ここでは主体的に参加し作業することで、周りの人から『助かるよ、ありがとう』と声をかけられる。また、支援先の子どもたちが元気に育っている様子や喜ぶ姿を見て、僕らも心からの『ありがとう』をたくさんもらう。だから、関わる人たちはみな対等な関係で、お互いにたくさん学び合い、ありがとうの循環が生まれているんです。」

iサイクルさんの活動は、誰でも気軽に参加できる国際協力です。ひとつのキャップが誰かの笑顔につながる、その一步を踏み出してみませんか。

特定非営利活動法人ISAPH ラオス・マラウイ

支援金を妊婦健診や、低体重児の栄養支援など、母子保健の充実・施設の修繕・建設費などに充てています。

アイサップ



改修された施設の前に立つ
保健センターの職員

カノッサ修道女会 フィリピン

支援金を粉ミルクの購入に充てています。



キャップ600個が
1杯のミルクに変わる